

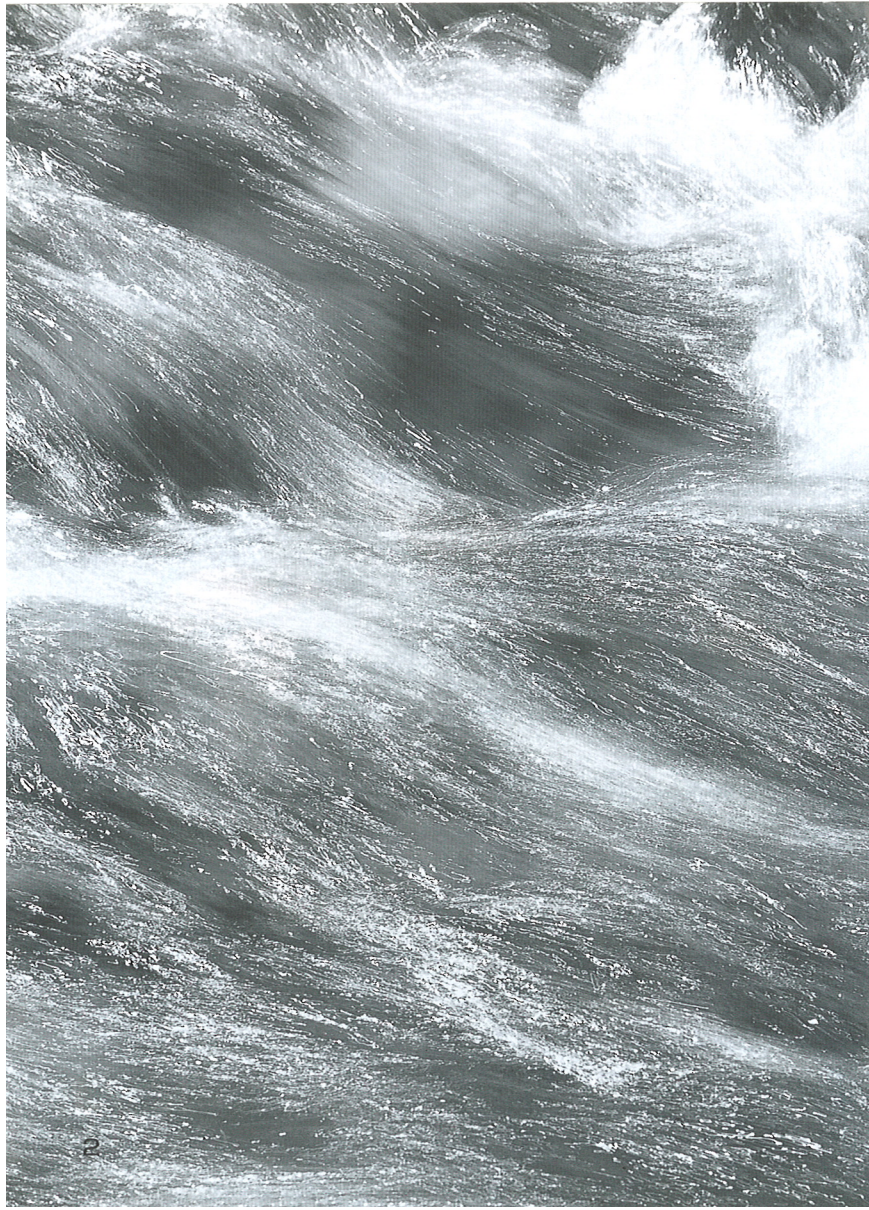
Canon

EOS Kiss III L



使用説明書





キヤノン製品のお買い上げありがとうございます

EOS KissⅢ L はたいへんコンパクトなAF一眼レフカメラですが、簡単な全自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

■本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。



カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

本文中に(→■)と表示されているのは、その箇所と関連のあるページを示しています。あわせてお読みください。

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため6ページの「安全上のご注意」および10ページの「取り扱い上のご注意」をお読みください。

この使用説明書では、EF28-90mm F4-5.6 USMレンズ付きで説明しています。

この使用説明書は必要なときいつでも取り出せる場所においてご活用ください。

■ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に作動することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。ご注意ください。
また、EOSと他社製品の組み合わせ使用で生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

目次

安全上のご注意	6
取り扱い上のご注意	10
すぐ撮影したい方のために(操作早わかり)	12
各部の名称	14

1 撮影前の準備 19

ストラップの取り付け方	19
電池のセットと電池容量の確認	20
レンズを取り付ける・取り外す	22
シャッターボタンとオートフォーカス	23
フィルムを入れる・取り出す	24
🔍 フィルム途中巻き戻し	25
カメラの構え方	26

2 カメラまかせの全自動撮影 27

□ 全自動で撮る	28
ストロボの自動発光について	30
内蔵ストロボによるAF補助光について	30
一枚撮影と連続撮影について	30
👁️ 赤目緩和機能を使う	31
👤 ポートレートで撮る	32
🏞️ 風景で撮る	33
🌸 クローズアップで撮る	34
🏊 スポーツで撮る	35
🌃 夜景で撮る	36
🕒 セルフタイマーを利用して撮る	37
アイピースカバーを使う	38
日付/時刻を入れて撮る	39
日付/時刻を変更する	40
クォーツデイト用電池の交換	40
パノラマ写真を撮る	41

3 撮影目的に合わせた自在な応用撮影 43

AFフレームの選択	44
AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる	45
AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)	46
測光方式について	47

P	プログラムAEで撮る	48
P と □ (全自動) の違い		49
	プログラムシフトについて	49
Tv	シャッター速度を決めて撮る	50
Av	絞りを決めて撮る	52
	被写界深度を確認する	53
M	自由に露出を決めて撮る	54
	表示パネル照明	55
A-DEP	近くから遠くまでピントが合った写真を撮る	56
*	部分測光・AEロックで撮る	57
	露出を補正して撮る	58
	自動で露出をずらして撮る/AEB	59
	カメラの電子音を消す	60
	長時間露光 (バルブ) 撮影	61
	多重露出撮影	62
ISO	フィルム感度を変更する	63
	ワイヤレスリモコン (別売) を使って撮る	64
	リモートスイッチ (別売) を使って撮る	64

4 内蔵ストロボを使った撮影 65

	内蔵ストロボ撮影	66
--	----------	----

資料 68

	写真の基本用語解説	68
	撮影機能の組み合わせ一覧	70
	AFモードとフィルム巻き上げの関係	70
	露出警告表示一覧表	71
	「故障かな？」とお考えになる前に	72
	主なアクセサリ (別売)	73
	主な仕様	75
	索引	78

1

2

3

4

資料

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

その他の絵表示の例

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止

- ⊙ 記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
- ⊙ の中に具体的な禁止内容が描かれています。

⚠ 警告

電池について

-  このカメラで指定されていない電池は、使用しないでください。電池（乾電池）の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。また、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  電池を火の中に入れたり、分解、加熱、ショートは絶対しないでください。また、水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  リチウム電池、アルカリ電池など充電できない電池を無理に充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  電池を取り外した場合は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が冒される恐れがありますので、ただちに医師に相談してください。
-  万一、カメラ（電池）が熱くなる、煙がでる、焦げ臭いなどの異常が起こった場合、そのまま使用すると火災、火傷の原因になります。火傷には、十分注意しながら速やかに電池を取り出し、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
-  電池を廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。
-  電池の「+」と「-」の向きをまちがえないようにしてください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

警告

-  可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となることがあります。

ストロボについて

-  ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
-  ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。火傷の原因となります。
-  車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。

その他取り扱いについて

-  自分でカメラを分解、改造しないでください。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
-  落下等により、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
-  レンズまたはレンズをつけたカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
-  湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。

⚠ 警告

- ⚠ カメラは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
- ⊘ 自動車などの運転中に運転者は、カメラを絶対に操作しないでください。交通事故の原因となります。

⚠ 注意

- ⊘ カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの近くに置いたりしないでください。カメラ自体が高温になり、触ると火傷の原因となることがあります。
- ⊘ カメラを低温状態中に放置しないでください。カメラ自体が低温になり、触るとけがの原因となることがあります。
- ⊘ レンズまたはレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
- ⚠ カメラをストラップで下げているときは、他の物に引っ掛かったりしないように注意してください。けがをする原因となることがあります。
- ⊘ カメラを三脚に取り付けたまま移動しないでください。つけたまま移動するとつまずいたり、ぶつかけたりしてけがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- ⚠ 万一、カメラごと水に落としたり、内部に水が入った場合は、電池を抜いて、速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- (1) このカメラは防水構造になっていませんので、雨天下や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- (2) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (3) レンズやフィルム室内にゴミがついているときは、市販のブロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (4) カメラを長期間使用しないときは電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。また保管期間中もときどきシャッターを切るようにして、作動することを確認してください。
- (5) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。
- (6) 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルについて

カメラの表示パネルは液晶を使用しています。表示がうすくなった場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください(有料)。なお液晶の特性上、低温下で表示反応がやや遅くなったり、

60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

リチウム電池について

- (1) カメラはリチウム電池CR2を2本正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。
 - 電池を交換したとき
 - 長期間カメラを使用しなかったとき
 - シャッターが切れなくなったとき
 - 寒冷地で撮影するとき
 - その他、大切な写真を撮るとき
- (2) 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよくふきとってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- (3) この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

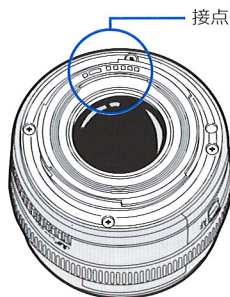
電圧の低下とカメラの作動について

表示パネルに ⚡ が点滅しても、シャッターが切れば写真は適正露出になります。ただし、電池の容量が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。

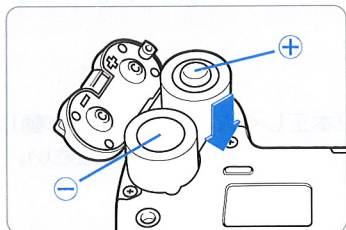
新品の電池に交換してください。

レンズの接点について

レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



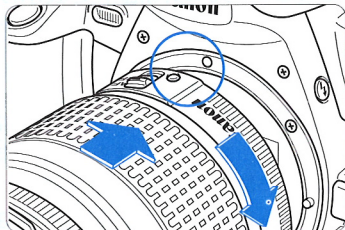
すぐ撮影したい方のために



1

電池を入れる

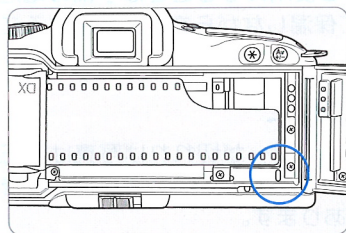
電池室ふたの表示にしたがってリチウム電池CR2を2本入れます。(→20)



2

レンズを取り付ける

レンズとカメラの赤いマークを合わせてさしこみ、カチッと音がするまでレンズを時計回りに回します。(→22)



5

フィルムを入れる

フィルムの先をオレンジ色のマークに合わせて、パチンと音がするまで背ぶたを閉じます。(→24)

- フィルムは最初の撮影コマまで巻き上げられます。

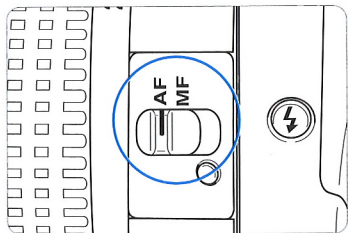


6

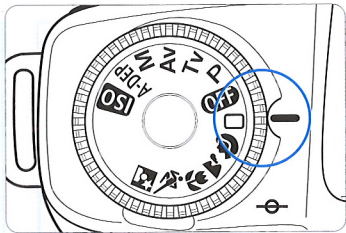
ピントを合わせる

写したいもの(被写体)にAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。(→28)

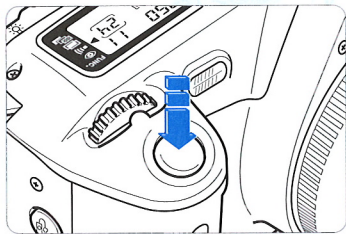
- 暗いときや日中逆光時には、内蔵ストロボが自動的に上がります。(→66)



3 レンズのフォーカス モードスイッチをAF にする (→22)

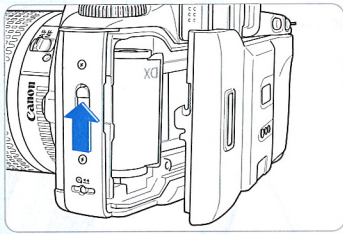


4 モードダイヤルを
く〇く(全自動)にする
(→28)



7 撮影する

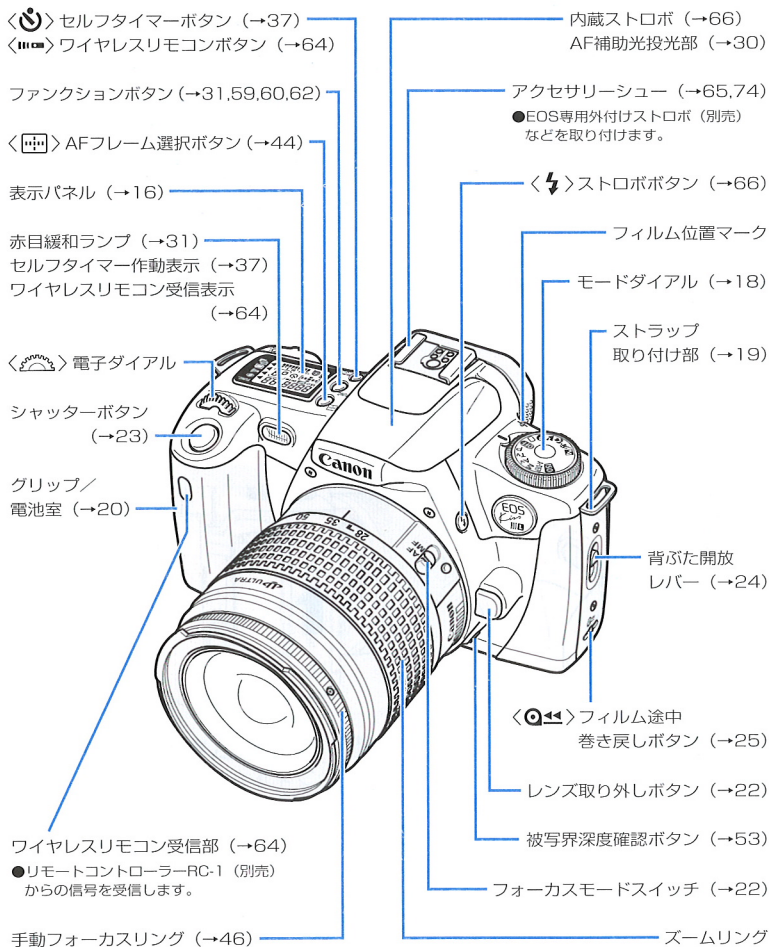
さらにシャッターボタンを押して撮影します。(→23)

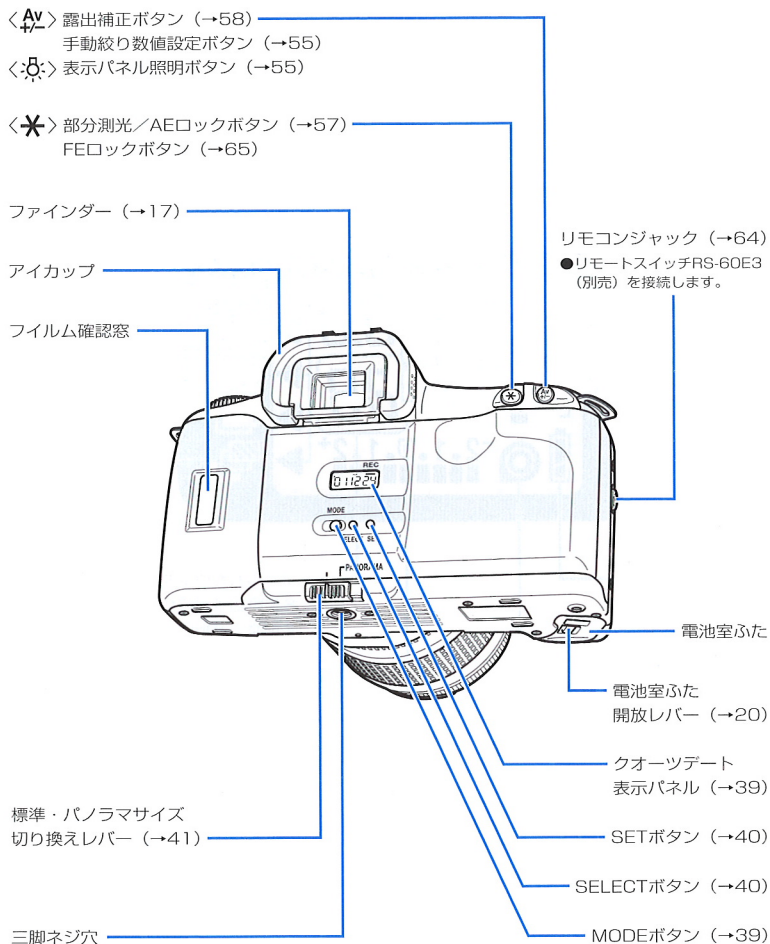


8 フィルムを取り出す

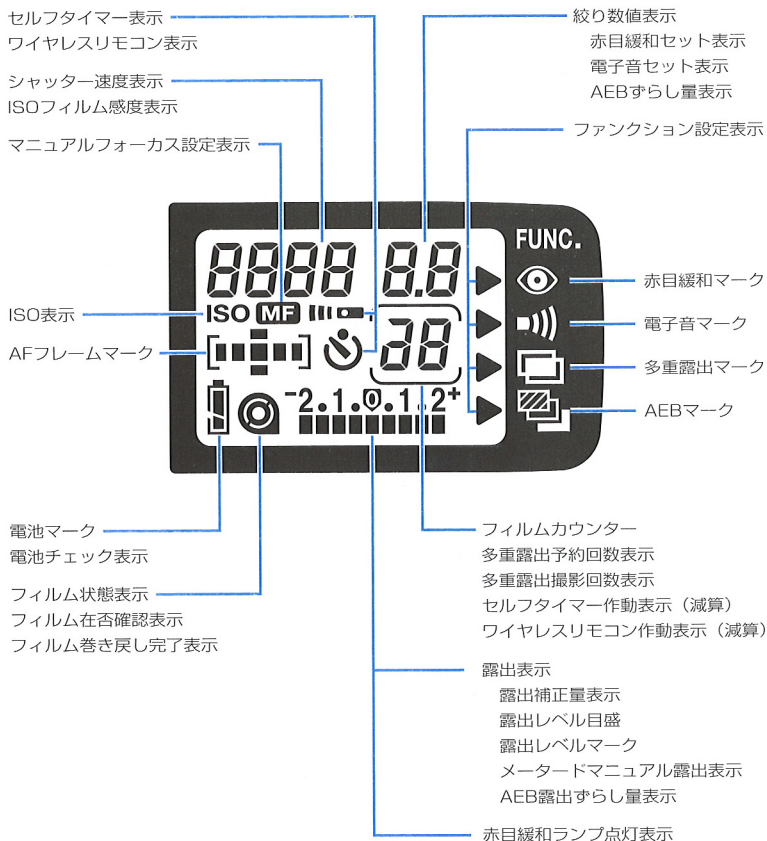
フィルムを撮り終わるとフィルムは自動的に巻き取られます。背ぶたを開けてフィルムを取り出します。
(→25)

各部の名称



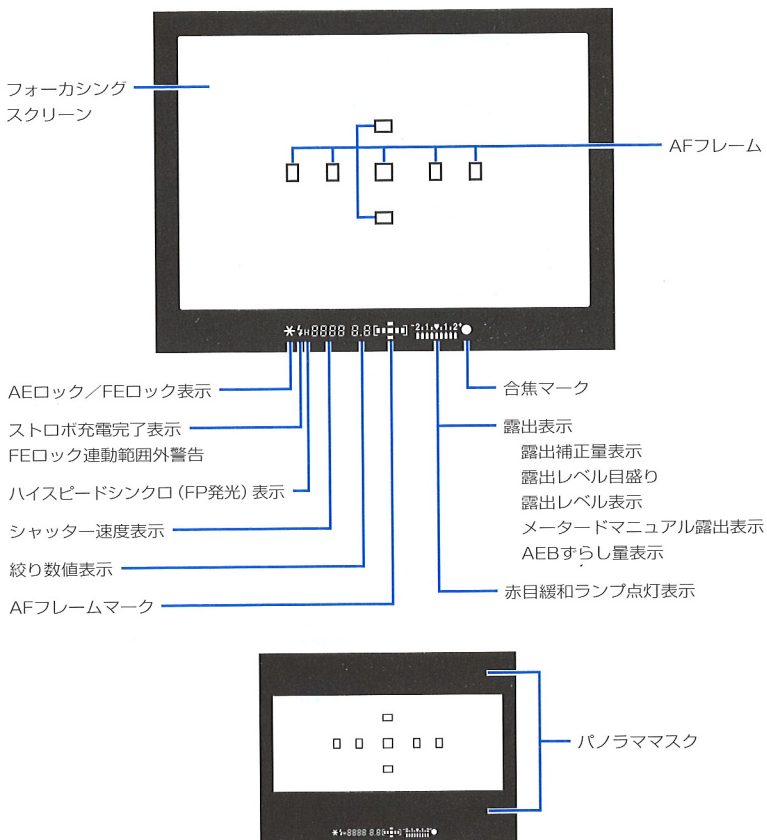


表示パネル



上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分が表示されます。

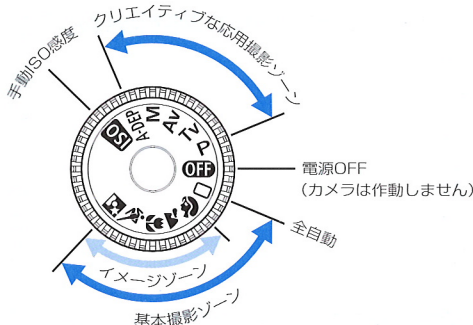
ファインダー内表示



上の図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分が表示されます。

モードダイヤルについて

モードダイヤルは4つの機能ゾーンに分けられています。



① 基本撮影ゾーン

Q : 全自動 (→28)

カメラまかせの全自動撮影ができます。

- 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

イメージゾーン

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

- 基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

- : ポートレート (→32)
- : 風景 (→33)
- : クローズアップ (→34)
- : スポーツ (→35)
- : 夜景 (→36)

② クリエイティブな応用撮影ゾーン

思い通りのさまざまな撮影ができます。

- P** : プログラムAE (→48)
- Tv** : シャッター優先AE (→50)
- Av** : 絞り優先AE (→52)
- M** : マニュアル露出 (→54)
- A-DEP** : オートDEP (→56)

③ ISO : 手動ISO感度 (→63)

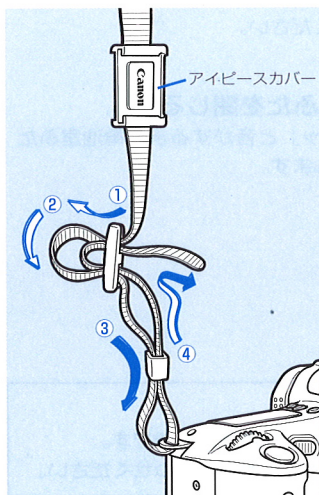
④ OFF : 電源OFF



カメラを使用しないときは、不用意な作動をさけるため、モードダイヤルを〈OFF〉にしてください。

撮影の前にはしておかなければならない準備や、シャッターボタンの働きについて説明しています。

撮影前の準備



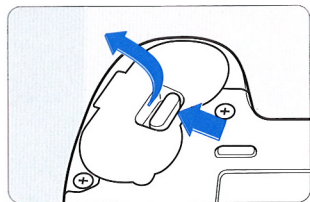
ストラップ(吊りひも)の取り付け方
ストラップの先をストラップ取り付け部
の下から通し、さらにストラップについ
ている止め具の内側を通します。ストラ
ップを引っぱっても止め具の部分でゆる
まないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーがつ
いています。(→38)

電池のセットと電池容量の確認

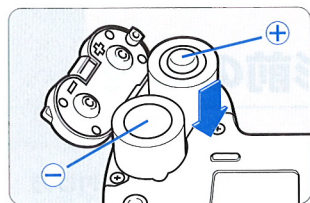
電池をセットする

電池はリチウム電池CR2を2本使用します。



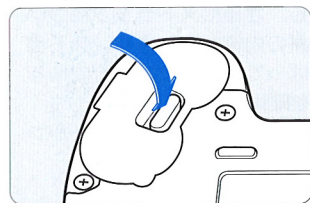
1 電池室ふたを開ける

- 電池室ふた開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室ふたを開けます。



2 電池を入れる

- 「+」「-」をまちがえないよう電池室ふたの表示にしたがって電池を入れます。
- 古い電池と新しい電池を混ぜて使わないでください。



3 電池室ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまで電池室ふたを押します。



Ni-MH

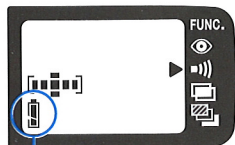
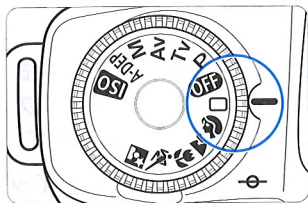
使用後はリサイクルへ

ニッケル水素電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。

リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

電池容量を確認する

電池を交換したときや撮影の前などには、電池の容量を確認してください。



電池チェック表示

モードダイヤルをく<OFF>以外にする

- 電源が入り表示パネルに電池チェック表示が表示されます。

 : 電池の容量は十分です。

 : 電池の容量が少なくなっています。新しい電池を用意して下さい。

 : もうすぐ電池切れになります。

 : 新しい電池と交換してください。(→11) このときシャッターは切れません。

撮影可能フィルム本数（24枚撮りフィルム）

[本]

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温（+20℃）	60	24	12
低温（-10℃）	40	16	8

- テストは新品電池、EF28-90mm F4-5.6 USMレンズを使って当社の試験条件で行っています。
- 撮影時以外でもオートフォーカスを行ったり、フィルムを入れずに空撮すると電池が消耗し、撮影本数が少なくなります。



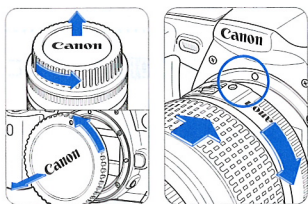
表示パネルに何も表示されない場合は電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れなおしてください。(→20)



地域によっては電池の入手が困難ことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真をたくさん撮るときは、予備の電池を用意してください。

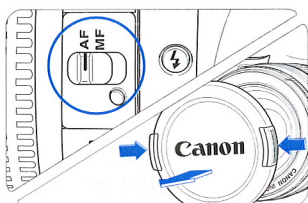
レンズを取り付ける・取り外す

レンズの取り付け方



1 レンズのダストキャップとカメラのボディキャップを外す

2 レンズとカメラの赤いマークを合わせてレンズをはめこみ、矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回す



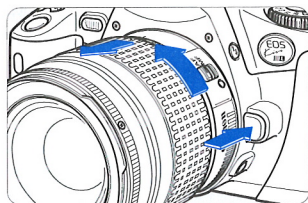
3 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにする

- MF (あるいはM) になっているとオートフォーカスできません。
- オートフォーカス中は、レンズの回転する部分に触れないでください。

4 レンズキャップを外す

- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。

レンズの取り外し方



レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- レンズを止まるまで回してから、外してください。



● AFはAuto Focus／自動焦点の略です。

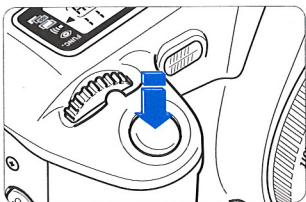
● MF, MはManual Focus／手動焦点の略です。

シャッターボタンとオートフォーカス

EOSのシャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

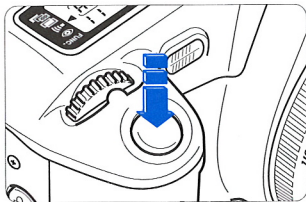
シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンは次のような働きをします。



半押し

- 自動ピント合わせ（オートフォーカス／AF）が働き、写したいもの（被写体）にピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に緑色のランプ（合焦マーク）がつかまります。
- 同時にシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（露出）が決まり、表示パネルとファインダー内に表示されます。



全押し

- シャッターが切れて撮影され、フィルムを1コマ巻き取ります。



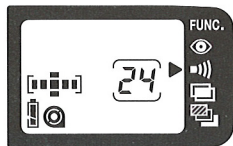
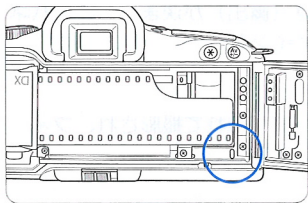
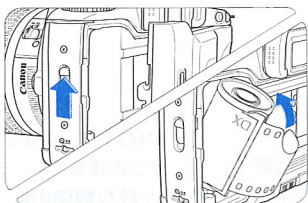
シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ぶれ」といい、全体がぼけたような写真になってしまいます。シャープな写真を撮るために次の点に注意してください。（→26）

- カメラが動かないようにしっかり構えてください。
- シャッターボタンに指の腹をかけ、右手全体に握るような感じの力を入れて、静かに押します。

フィルムを入れる・取り出す

フィルムを入れる

フィルムをセットすると一度フィルムを全部巻き取り、撮影のたびに1コマずつ巻き戻していきます。フィルムカウンターには常に残っているフィルムの枚数が表示されます。



1 モードダイヤルをく OFF 以外にする

2 背ぶた開放レバーを上げて背ぶたを開く

3 フィルムを図のように斜めにしながら入れる

4 フィルムの先端をオレンジマークに合わせ、背ぶたを閉じる

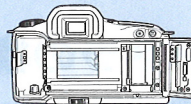
- フィルムがたるまないよう、フィルム容器(パトローネ)を押さえてください。
- フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネに少し巻き戻してください。
- フィルム巻き取り中表示パネルにISOフィルム感度が表示されます。
- フィルムの巻き取りが始まり、フィルムカウンターの数字が増えていきます。最後にシャッターが切れるような音が出て、表示パネルにく ☉ と撮影できるフィルムの枚数が表示されます。
- フィルムの枚数が表示されずく ☉ が点滅する場合はフィルムが正しくセットされていません。フィルムを入れなおしてください。



- フィルム感度はDXコードによって自動的にセットされます。
- DXコードがついていないフィルムは手動でフィルムの感度をセットします。
(→63)



- このカメラの特性上、赤外フィルムは使用できません。
- シャッター幕は非常に高い精度で作動します。絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分ご注意ください。



フィルムを取り出す

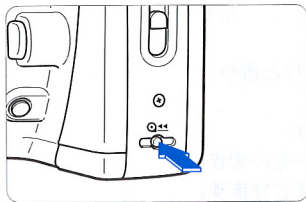
フィルムの最後のコマを撮影すると自動的にフィルムの巻き戻しが始まります。



巻き戻しが終わるとシャッターが切れるような音がしたあと表示パネルに  だけが点滅します。表示を確認して背ぶたを開けフィルムを取り出します。

フィルム途中巻き戻し

フィルムを撮り終える前に取り出すときは、次のようにします。



1

＜＞ボタンを押す

- フィルムの巻き戻しが始まります。その後の作動と操作は自動巻き戻しと同じです。

2

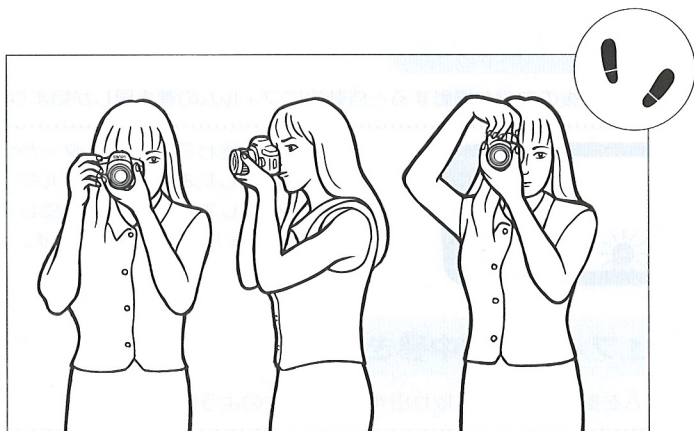
フィルムを取り出す



撮影の途中で巻き戻し操作をせずにフィルムを取り出した後、続けて新しいフィルムを入れるとフィルムがパトローネに巻き取られてしまいます。一度背ぶたを閉じて、シャッターボタンを押してから新しいフィルムをセットしてください。

カメラの構え方

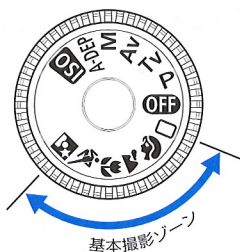
鮮明な写真を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。



よこ位置

たて位置

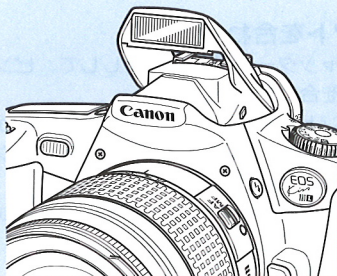
- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額につけるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足は揃えずに片足を軽く踏みだして体を安定させます。



ここではモードダイヤルの基本撮影ゾーンにある〈□〉、〈人〉、〈花〉、〈鳥〉、〈魚〉、〈風景〉を使って簡単に写真を撮る方法を説明しています。このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影ができるように、すべてが自動設定されています。

また、誤操作による失敗を防ぐため、〈歯車〉(電子ダイヤル) や各種操作ボタン(〈目〉、〈M〉) 設定、〈U〉、〈Q〉を除く) による操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。

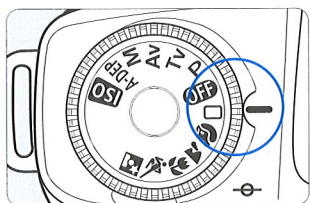
カメラまかせの 全自動撮影



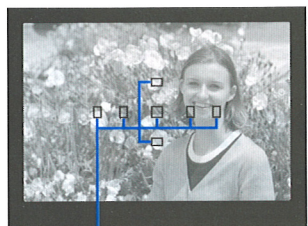
- 〈□〉、〈人〉、〈花〉、〈鳥〉の撮影モードで、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に上がって発光します。
- 基本撮影ゾーンで自動設定されている機能の内容は70ページの「撮影機能の組み合わせ一覧」をご覧ください。

□ 全自動で撮る

〈□〉での撮影は、シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。7つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな写真が写せます。



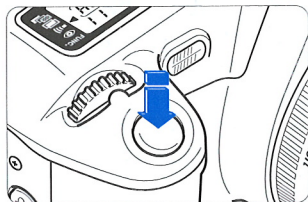
1 モードダイヤルを〈□〉にする



AFフレーム

2 被写体にAFフレームを合わせる

- カメラが主被写体と判断したAFフレームでピントを合わせます。
- 7つのAFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、45ページを参照してください。



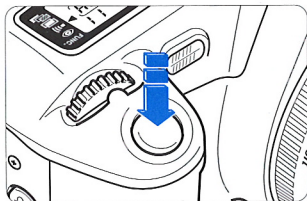
3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ピントが合うと「ピピッ」という音がし、ファインダー右下に合焦マーク（●）が点灯します。
- ピントが合ったAFフレームマークが点灯します。



4 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

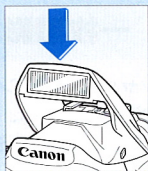


5 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影します。



- AFでピントが合うと同時に、ピントと露出はロックされます。(→45)
- 合焦マークが点滅するときは、シャッターが切れません。46ページおよび72ページを参照してください。
- 7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントが合います。
- 複数のAFフレームマークが同時に点灯することがあります。そのときは、表示に対応するAFフレームでとらえたすべての点にピントが合っています。
- 暗いときや日中逆光時には、必要に応じてストロボが自動的に上がって発光します。
- 内蔵ストロボを収納するには、図のようにストロボ上部の真中を指で押し下げます。
- 内蔵ストロボ撮影に関しては66ページを参照してください。
- 表示パネルを照明することができます。(→55)



ストロボの自動発光について

全自動のく□、イメージゾーンのく●、く●、く■において、暗いときや、日中逆光時には、ストロボが自動的に上がって発光します。



誤ってストロボの自動ポップアップを阻害した場合は、表示パネルのく☀️が点滅して警告します。その場合はシャッターボタンを半押しすると正常に戻ります。



ストロボ撮影が禁止されている場所や、室内の照明を利用した写真を撮りたいときは、**P**（プログラムAE／48ページ参照）で撮影することをおすすめします。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押しするとストロボが連続的に光ることがあります。これは、AFでピントを合わせやすくするために光るもの（AF補助光）です。



- く●、く●では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光によってピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、ストロボボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。
- 別売のEOS専用ストロボをつけている場合は、そのストロボに内蔵されたAF補助光が光ります。
- AF補助光は基本撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも機能します。

一枚撮影と連続撮影について

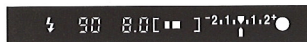
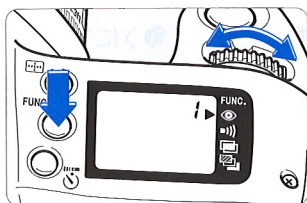
シャッターボタンを全押しし続けた場合のフィルム巻き上げ方式（一枚撮影あるいは連続撮影）は、撮影モードに応じて自動設定されています。

内容は、70ページの撮影機能の組み合わせ一覧を参照してください。

👁 赤目緩和機能を使う

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これはストロボの光が人の目の中で反射して起こる現象で「赤目現象」といいます。

赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプがつき、写る人のひとみを小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は全ての撮影モードでいつでも設定できます。



赤目緩和ランプ
点灯表示

1 ファンクションボタンを押して、
<▶>マークを <👁>に合わせる

2 表示パネルに「1」を表示させる

- 電子ダイヤルを回して、「1」を表示させます。赤目緩和機能を解除するときは、表示パネルに「0」を表示させます。
- 次のいずれかの操作をすると、設定は終了です。

- ・シャッターボタン半押し
- ・モードダイヤル操作
- ・設定後6秒経過（自動終了）



- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内の赤目緩和ランプ点灯表示が行われ、赤目緩和ランプが点灯していることを知らせます。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和機能はEOS専用外付けストロボ使用時も機能します。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。



- この機能は、写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 室内を明るくする、写したい人に近づくとより効果的です。

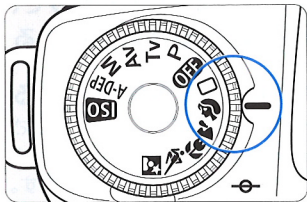


ポートレートで撮る



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。



モードダイヤルをくPにする

- 撮影の手順は「□ (全自動) で撮る」(→28) と同じです。

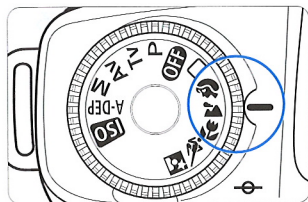


- 被写体の上半身がファインダー一杯になるくらいにすると背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとよいでしょう。
- 望遠系レンズを使用すると背景をさらにぼかすことができます。ズームレンズをお使いの方はレンズを望遠側(28-90mmのレンズなら90mmです)にすると効果的です。
- 暗いときや日中逆光時には、必要に応じてストロボが自動的に上がって発光します。
- 内蔵ストロボ使用上の注意などに関しては66ページを参照してください。

風景で撮る



広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。



モードダイヤルをく< Landscape >にする

- 撮影の手順は「□（全自動）で撮る」（→28）と同じです。



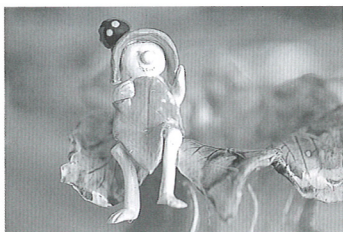
- シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。三脚を使用して撮影することをおすすめします（三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません）。
- 内蔵ストロボが上がった状態で撮影してもストロボは光りません。



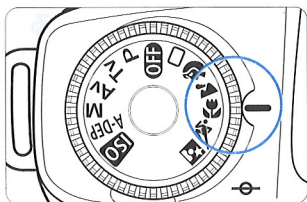
広角系レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。ズームレンズをお使いの方はレンズを広角側（28-90mmのレンズなら28mmです）にすると効果的です。



クローズアップで撮る



草花や昆虫を大きく撮るようなときに
使用します。



モードダイヤルをく🌸にする

- 撮影の手順は「□ (全自動) で撮る」
(→28) と同じです。



- 使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影しましょう。
- ズームレンズの場合は、望遠側にとると被写体をさらに大きく撮影することができます。
- 本格的なクローズアップ撮影には、別売のEOS専用マクロレンズとマクロストロボの使用をおすすめします。
- 暗いときや日中逆光時には、必要に応じてストロボが自動的に上がって発光します。
- 内蔵ストロボ使用上の注意などに関しては66ページを参照してください。

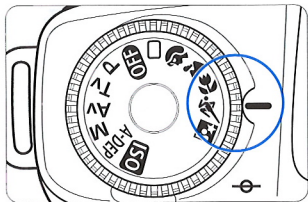


スポーツで撮る



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。



モードダイヤルをく<S>にする

- 撮影の手順は「□（全自動）で撮る」（→28）と同じです。



- シャッター速度表示が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします（三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません）。
- 内蔵ストロボが上がった状態で撮影してもストロボは光りません。



- ISO 400以上の高感度フィルムを使うことをおすすめします。
- スポーツ撮影には、200mm～300mm程度の望遠系のレンズをおすすめします。



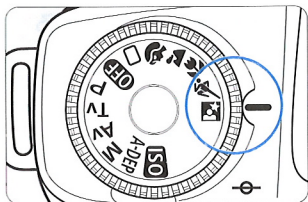
夜景で撮る



夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。

人にはストロボ光が当り背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影することができます。

手ぶれを防ぐために必ず三脚をお使いください。



モードダイヤルを<A-DEP>にする

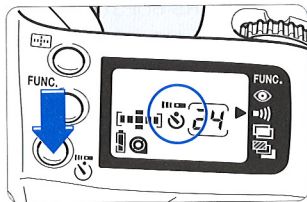
- 撮影の手順は「□で撮る」(→28)と同じです。



- ISO 400以上の高感度フィルムを使うことをおすすめします。
- 人物が入らない夜景のみの撮影には<A-DEP>で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐには動かないよう写真を撮られる人に声をかけてください。
- セルフタイマーを併用した時は、赤目緩和ランプが一瞬光って撮影終了を示します。
- EOS専用外付けストロボ併用時も<A-DEP>で撮影できます。
- 日中での撮影は、<□>撮影と同じ撮影結果になります。

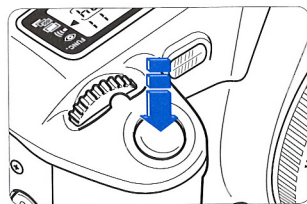
セルフタイマーを利用して撮る

セルフタイマーは自分自身を含めた記念撮影などに使用します。基本撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



1 <⌚> ボタンを押す

- 表示パネルに<⌚><⏻>が表示されます。
- もう一度<⌚>ボタンを押すか、モードダイヤルを<OFF>にすると、セルフタイマーは解除されます。



2 撮影する

- 撮影の手順は「☐ 全自動で撮る」(→28)と同じです。
- ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。
- シャッターボタンを全押しすると、電子音が次のように鳴り、10秒後に撮影されます。なお、赤目緩和ランプも同時に光ります。
最初の8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音
／ランプ点滅
最後の2秒間：早くピピピピ音
／ランプ点灯
- セルフタイマー作動中は、表示パネルにシャッターが切れるまでの秒数が減算で表示されます。



- 電子音は消すことができます。(→60)
- セルフタイマー／リモコンボタンを押してから約4分間放置すると、セルフタイマー／リモコン機能は自動的に解除されます。

🔊セルフタイマーを利用して撮る／アイピースカバーを使う



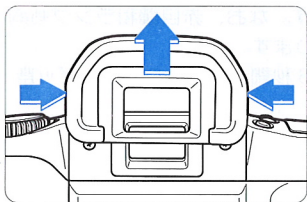
- セルフタイマーの作動を途中で解除するときは、もう一度🔊ボタンを押してください。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（→45）して撮影します。
- リモートコントローラーRC-1（別売）、リモートスイッチRS-60E3（別売）を利用するとカメラから離れたところからシャッターを切ることができます。（→64）



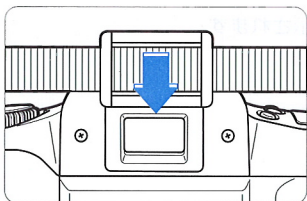
カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピンボケ写真の原因となることがあります。

アイピースカバーを使う

セルフタイマーやリモートスイッチ（別売）を使うときなど、ファインダーから目を離れた状態で撮影すると、ファインダーから入った光で露出が狂うことがあります。それを防ぐため、ファインダー接眼部にアイピースカバーを取り付けてください。



1 アイカップを外す



2 ストラップに付いているアイピースカバーを接眼部に取り付ける

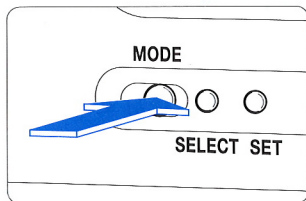
日付／時刻を入れて撮る



日付は上の写真のように画面の右下に写し込まれます。

このカメラには2049年までのオートカレンダーが組み込まれたクォーツデートがついています。撮影と同時に日付や時刻を左に示す写真の位置に写し込むことができます。なお、日付／時刻を写し込まないようにすることもできます。

日付／時刻は基本撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも写し込むことができます。



＜MODE＞ボタンを押す

- クォーツデート表示パネルの表示が次のように変わります。

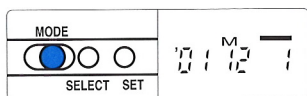
＜年月日＞表示	01 ^M 12 [—] 24 [—]	(2001年12月24日)
↓		
＜日時分＞表示	24 16:45	(24日16時45分)
↓		
＜ハイフン＞表示	— — — —	(なにも写し込まない)
↓		
＜月日年＞表示	^M 12 [—] 24 [—] 01 [—]	(12月24日2001年)
↓		
＜日月年＞表示	24 ^M 12 [—] 01 [—]	(24日12月2001年)

●Mは「月」を表します。

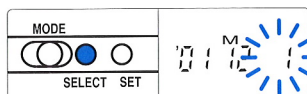
●—は写し込みを確認するマークです。撮影すると点滅して日付／時刻の写し込みを知らせます。

日付／時刻を変更する

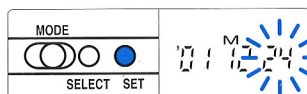
日付や時刻を変更するときは次のようにします。



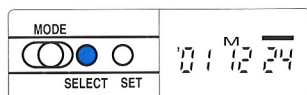
- 1** 〈MODE〉ボタンを押して変更する日付(時刻)を選ぶ



- 2** 〈SELECT〉ボタンを押して修正する数字を点滅させる



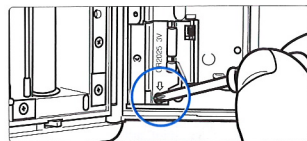
- 3** 〈SET〉ボタンを押して正しい数字をセットする



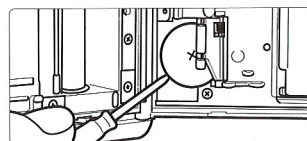
- 4** 点滅している数字がなくなるまで〈SELECT〉ボタンを押す

クォーツデイト用電池の交換

写真に写し込まれた数値や、クォーツデイト表示パネルの表示がうすくなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。クォーツデイト用の電池はリチウム電池CR2025、1個です。



- 1** 背ぶたを開け、図に示すねじをゆるめ電池室のふたを取り外す



- 2** 電池を取り出す



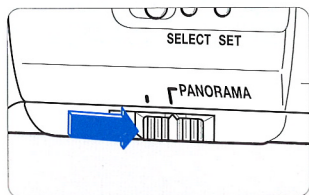
- 3** 新しい電池の「+」側を上にして入れ、電池室のふたを取り付ける

- 4** 日付と時刻をセットしなおす

パノラマ写真を撮る

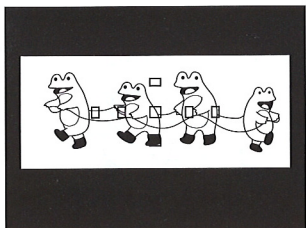
全ての撮影モードで、いつでも標準サイズの写真とパノラマサイズ（パノラマモード）の写真を切り換えて撮影することができます。

- このカメラのパノラマ写真とは、フィルムの上下の部分に光りが当たらないようにカバーして約13 × 36mm（横長）の写真を撮り、プリントするときにパノラマサイズ（89 × 254mm）に仕上げた写真のことです。（→42）



1 パノラマ・標準サイズ切り換えレバーをパノラマ側にスライドする

- ファインダー枠がパノラマサイズに切り換わります。



2 構図を決めて撮影する

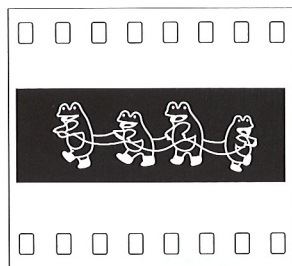


- パノラマサイズで撮影したフィルムの現像・プリントは通常の現像・プリント処理とは異なります。フィルムをお店に出すときは、パノラマサイズで撮影したことを、受け付け時に必ずお伝えください。
- カメラのパノラマ機構が破損しますので、パノラマアダプターPA-1000を取り付けしないでください。

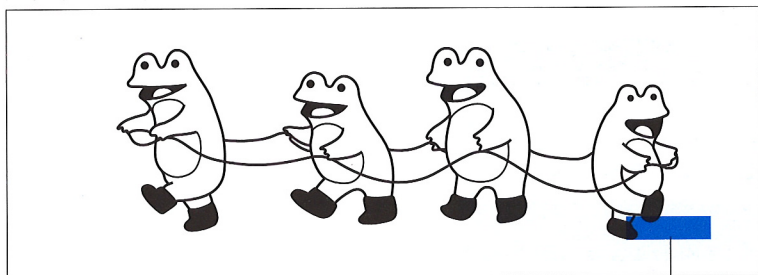
パノラマ撮影したフィルムとプリントについて

フィルム上の撮影範囲

パノラマ撮影するとフィルム上では、図のよう
に上下がカットされた形で撮影されます。
撮影枚数は変わりません。



パノラマプリント

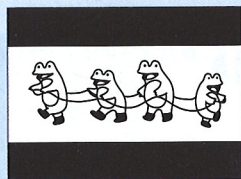


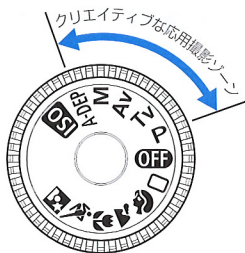
日付／時刻はパノラマサイズの写真にも画面
右下に写し込まれます。(→39)

写し込み位置



パノラマ撮影したフィルムを通常のプリントにする
と、写真の上下が黒くなります。





応用撮影ゾーンではシャッター速度や絞り数値を選択して露出を自分の好みに変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影をすることができます。ここでは〈**P**〉、〈**Tv**〉、〈**Av**〉、〈**M**〉、〈**A-DEP**〉それぞれの効果的な使い方や露出の補正方法について説明します。

撮影目的に合わせた 自在な応用撮影

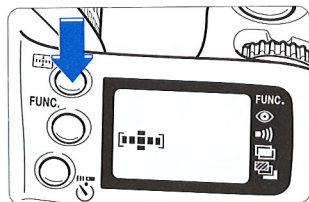
- 本文中の〈〉は電子ダイヤルを表しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離してもタイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内のシャッター速度と絞り数値は、約4秒間表示されています。
- 被写界深度確認、AEロック、露出補正、AEB、バルブ、多重露出は応用撮影ゾーンでのみ使用できます。
- 応用撮影で自動設定される機能の内容は70ページの「撮影機能の組み合わせ一覧」をご覧ください。

AFフレームの選択

AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択には自動選択と手動選択があります。全自動、イメージゾーンのすべての撮影モード、および<A-DEP>では自動選択のみとなっていますが、<P>、<Tv>、<Av>、<M>の各撮影モードでは、自動選択と手動選択を切り換えることができます。

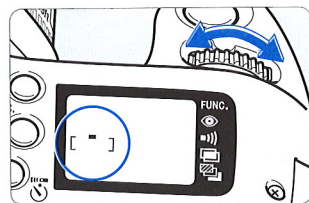
自動選択：撮影状況に応じカメラが自動的に選択したAFフレームでピント合わせが行われます。気軽なスナップ撮影などに適しています。

手動選択：7つのAFフレームから、自分で選択した任意のAFフレームでピント合わせを行うことができます。狙った被写体に確実にピントを合わせたい場合や、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたい場合に便利な機能です。



1 <AF-ON>ボタンを押す

- 選択されているAFフレームに対応したAFフレームが点灯します。
- ボタンから指をはなしても約6秒間点灯しています。

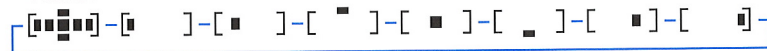


2 AFフレームの状態を選ぶ

- 表示パネルあるいはファインダー内表示を見ながら<AF-ON>を回し、以下のように循環するAFフレームの中から希望する状態を選択します。

自動選択

手動選択



3 シャッターボタンを半押しする

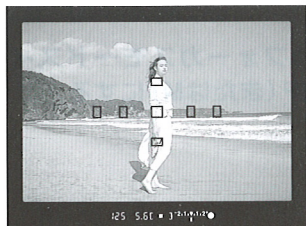
- 撮影準備状態に戻ります。
- 半押ししなくても約6秒間たつと選択操作は自動的に終了します。



手で選択したAFフレームは、モードダイヤルを全自動、イメージゾーンにする
と解除され、自動選択AFになります。

AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる

7つのAFフレームに入らないような画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。

1 希望するAFフレームを選ぶ
(→44)

2 ピントを合わせる

- 選択したAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

3 シャッターボタンを半押しした
まま構図を変える

4 撮影する



フォーカスロックは、基本撮影ゾーンでも利用できます。

AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)

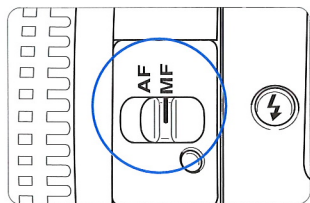
このカメラは精度の高いAFシステムを搭載しており、ほとんどの被写体にピントを合わせることができます。ただし、次のような被写体に対してはピントを合わせることができない(合焦マークが点滅)ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

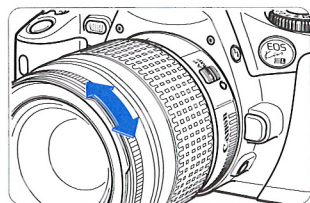
- (a) 明暗の差が極端にない被写体 ……例: 青空、単色の平面など
- (b) 極端な逆光状態で、かつ光の反射が強い被写体 ……例: 反射光の強い車のボディ
- (c) 遠くと近くに共存する被写体 ……例: おりの中の動物

これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロック撮影(→45)するか、次の手順で手動ピント合わせをしてください。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)



- 1 レンズのフォーカスモードスイッチをMF (またはM) にする



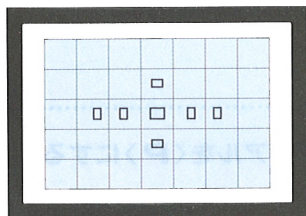
- 2 ファインダー内の被写体はつきり見えるまで、レンズの手動フォーカスリングを回す



被写体にピントが合うとファインダー内にピントが合ったAFフレームマークと合焦マーク(●)が点灯します。

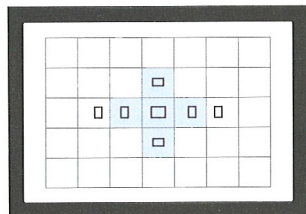
測光方式について

測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3種があります。評価測光が標準の測光方式となっています。部分測光はAEロック撮影時(→57)に、中央部重点平均測光は<M>モード時(→54)に、それぞれ自動設定されます。



評価測光

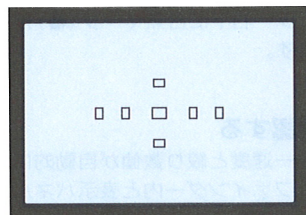
逆光撮影を含む一般の撮影に適しています。ファインダー内の主被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光などの要素を7つのAFフレームに連動してカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出値にします。



部分測光

ファインダー中央部の約9.5%の範囲を測光します。逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。

- 部分測光の測光範囲はほぼ左図の範囲となります。



中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。



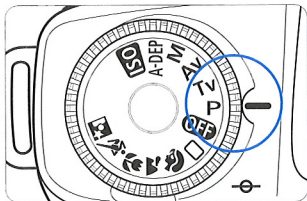
- ワンショットAFおよびAIフォーカスAF(AIサーボAF時を除く)の場合(→70)、シャッターボタンを半押しして被写体にピントが合うと同時に自動的にAEロックされます。
- 測光方式を任意に選択・変更することはできません。

PプログラムAEで撮る

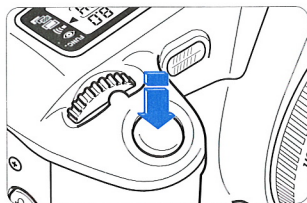


〈□〉と同じように気軽に撮影することができます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動セットします。これをプログラムAEといいます。

*Pは、Programの略です。

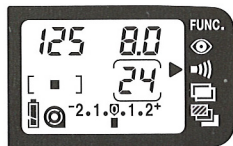


1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

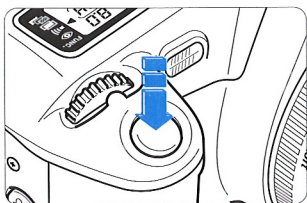
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ピントが合うと「ピピッ」という音がし、ファインダー右下に合焦マーク(●)が点灯します。



3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- シャッター速度と絞り数値が点灯していれば、適正露出です。
- 点滅したときは71ページの「露出警告表示一覧表」をご覧ください。





4 ● 撮影する

構図を決めシャッターボタンを全押しします。

Pと□（全自動）の違い

〈P〉と〈□〉は、自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせは同じですが、次の操作の可否（○：可能、×：不可能）が異なります。

機 能	P	□ 全自動
連続撮影	○	×
プログラムシフト	○	×
露出補正	○	×
AEB	○	×
部分測光・AEロック	○	×
AFフレームの手動選択	○	×
内蔵ストロボの強制発光／発光禁止	○	×
EXストロボ使用・ハイスピードシンクロ	○	×
EXストロボ使用・FEロック	○	×

プログラムシフトについて

プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。

プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が出るまで〈〉を回して行います。

- プログラムシフトは撮影後、自動的に解除され元のプログラムに戻ります。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。



AEはAuto Exposure／自動露出の略です。

Tvシャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮ることができます。シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

シャッター速度は〈〉で設定します。

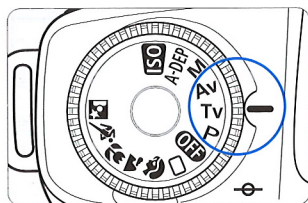
*Tvは、Time value/シャッター速度(時間値)の略です。



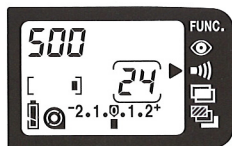
速いシャッター速度で撮影



遅いシャッター速度で撮影



1 モードダイヤルをくTv>にする



2 シャッター速度を選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈〉を回して、希望するシャッター速度を選びます。

3 ピントを合わせる

500 4.0E J⁻²1.1 1.2⁺

4 表示を確認する

5 撮影する

500 4.0E J⁻²1.1 1.2⁺

- 使用しているレンズの一番小さな絞り数値（最大口径／開放絞り）が点滅しているときは暗すぎる（露出アンダー）写真になります。点滅が止まるまでくまを回してシャッター速度を遅くしてください。

60 2.2E J⁻²1.1 1.2⁺

- 使用しているレンズの一番大きな絞り数値（最小口径／最小絞り）が点滅したときは明るすぎる（露出オーバー）写真になります。点滅が止まるまでくまを回してシャッター速度を速くしてください。



テレビ画面をきれいに写すには、シャッター速度を1/15秒にします。このときは三脚を利用してください。



シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段毎に設定することができます。2000から2までは分数の分母を表しています。例えば125は1/125秒を表しています。また、0.7は0.7秒を表し、15"は15秒を表しています。

2000 1500 1000 750 500 350 250 180 125 90
60 45 30 20 15 10 8 6 4 3 2 0.7 1" 1.5 2" 3"
4" 6" 8" 10" 15" 20" 30"

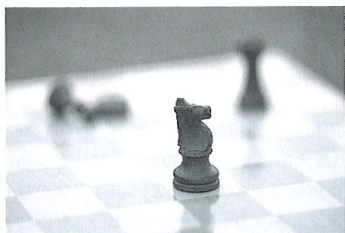
Av 絞りを決めて撮る／被写界深度を確認する

絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になるシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。

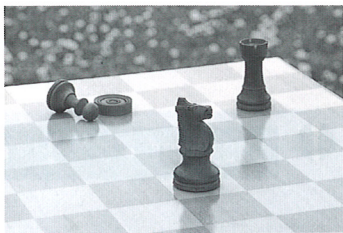
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る範囲が広がります。

絞り数値は  で設定します。

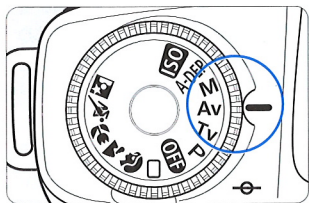
* **Av**は、Aperture value／絞り数値（開口値）の略です。



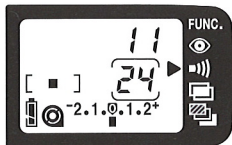
小さい絞り数値で撮影



大きい絞り数値で撮影



1 モードダイヤルをく **Av** > にする



2 絞り数値を選ぶ

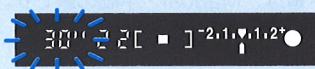
- 表示パネルを見ながら  を回して、希望する絞り数値を選びます。

3 ピントを合わせる

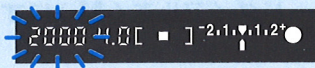


4 表示を確認する

5 撮影する



- シャッター速度の30が点滅しているときは暗すぎる（露出アンダー）写真になります。点滅が止まるまでくまのアイコンを回して絞り数値を小さくしてください。



- シャッター速度の2000が点滅しているときは明るすぎる（露出オーバー）写真になります。点滅が止まるまでくまのアイコンを回して絞り数値を大きくしてください。



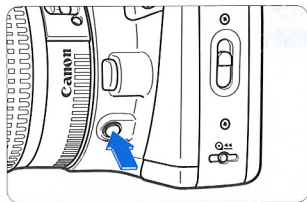
絞り数値の表示

絞り数値は1/2段ごとに設定することができます。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。

1.0 1.2 1.4 1.8 2.0 2.5 2.8 3.5 4.0 4.5 5.6 6.7 8.0
9.5 11 13 16 19 22 27 32 38 45 54 64 76 91

カメラにレンズが付いていないときは「00」を表示します。

被写界深度を確認する

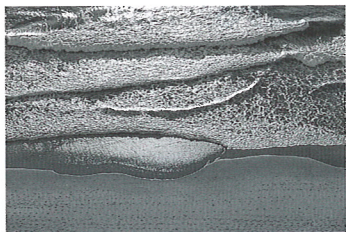


被写界深度確認ボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。



- 応用撮影ゾーンでのみ使用できます。
- <A-DEP>では、シャッターボタンを半押しした後で有効となります。
- 被写界深度確認ボタンを押すと、AEロック状態になります。

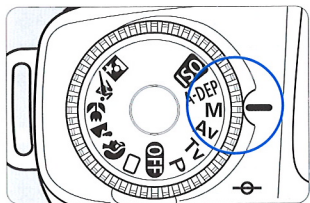
M 自由に露出を決めて撮る



カメラまかせでなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて、表現を工夫した写真を撮ることができます。シャッター速度と絞り数値の適正な組み合わせは、露出レベルマークで確認します。

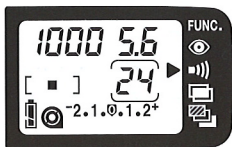
* Mは、Manual／手動の略です。

1 モードダイヤルをくM>にする



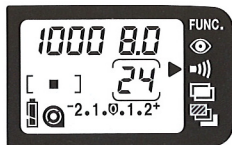
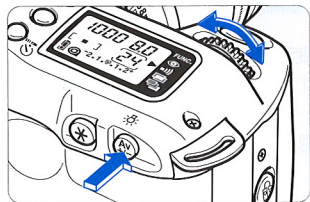
2 シャッター速度を選ぶ

表示パネルを見ながら、を回して、希望するシャッター速度を選びます。



3 絞り数値を選ぶ

くAv>ボタンを押しながら、を回して希望する絞り数値を選びます。



4 ピントを合わせる



5 表示を確認する

6 露出レベルマークに従い < 露出調整する

標準露出	-2, 1, 1, 1, 2+
露出オーバー	-2, 1, 1, 1, 2+
露出アンダー	-2, 1, 1, 1, 2+

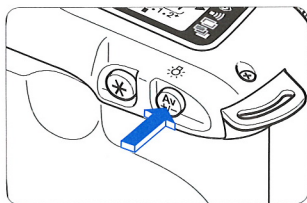
標準露出 : 露出を決めるときの基準です。

露出オーバー : シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

露出アンダー : シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。

7 撮影する

表示パネル照明



表示パネルには照明機能が付いています。< Fn > ボタンを押すたびに照明が点いたり (約2秒間) 消えたりします。

暗い場所で表示パネルが見にくいときにご利用ください。

表示パネルの照明は撮影終了後、約2秒で自動的に消えます。

なお、表示パネルが照明されている間に各種ボタン・ダイヤルを操作すると、照明時間が延長されます。



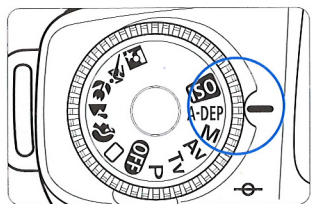
- 表示パネルを照明した状態で撮影すると、撮影時間中は照明が点いたままになります。

- 全ての撮影モードで機能します。

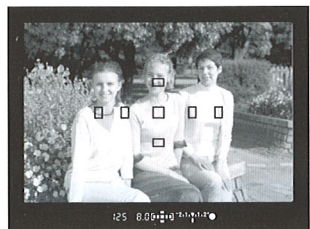
A-DEP 近くから遠くまでピントが合った写真を撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な写真を撮ることができます。7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。

* **A-DEP**は、Auto-Depth of field／自動深度優先AEの略です。

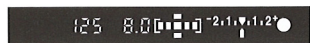


1 モードダイヤルをく **A-DEP** >にする



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせてシャッターボタンを半押しします。
- ピントが合ったAFフレームマークが表示されます。表示されたAFフレームマークに重なっている被写体から被写体までの間がピントが合う範囲です。
- ファインダー内に露出が表示されている状態でピントの合う範囲を事前に確認することができます。(→53)



3 表示を確認し、撮影する

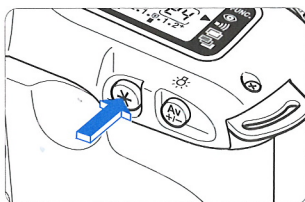
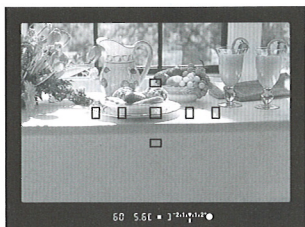
- 左の作例写真の場合、左手前の被写体から、右奥の被写体までが鮮明に写ります。



- 絞り数値が点滅するとき露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- シャッター速度や絞り数値を自由に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることもあるので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときはく **P** >のストロボ撮影と同じ結果になります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが **MF** (または**M**) になっているとく **A-DEP** >撮影できません。

＊部分測光・AEロックで撮る

スポットライトで照明されたステージのように、被写体と背景とのコントラスト（明暗差）が極端に強いと、構図によっては写真が明るく写りすぎたり暗く写りすぎたりします。そのようなときは部分測光撮影に切り換えるときれいに写すことができます。



1 露出を合わせたい被写体をファインダー中央においてピントを合わせる

2 <＊>ボタンを押す

●ファインダー内に<＊>が表示され、露出が固定（AEロック）されます。<＊>ボタンから指を離しても、4秒間表示されています。

●<＊>ボタンを押し直すたびに、その時の露出値をAEロックします。

●<＊>が表示されてから4秒間経過するかモードダイヤルを操作すると、AEロックは解除されます。

●モードダイヤルのMで撮影する（→54）時は、自分で決めた露出値と部分測光した被写体の明るさとの差が露出レベルマークで表示されます。

●連続してAEロック撮影する場合は、<＊>ボタンを押しつづけながら、シャッターボタンを押してください。

3 構図を決め直し、撮影する

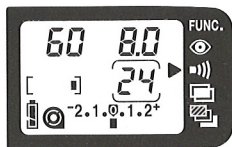
露出を補正して撮る

カメラが決めた標準的な露出を、意図的に変えることを露出補正といいます。写真を明るめ（露出オーバー）にする、あるいは暗め（露出アンダー）にするときに利用します。補正量は+2.0段から-2.0段の範囲で1/2段毎に設定することができます。

1 モードダイヤルをくM>以外の応用撮影ゾーンにする

2 露出表示を確認する

●シャッターボタンを半押しして表示を確認します。



3 補正量を選ぶ

●<Av>ボタンを押しながら<+>を回して、希望する補正量を選びます。

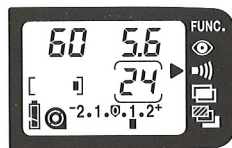
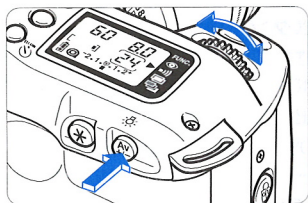
+は露出オーバー側へ、-は露出アンダー側への補正です。

-2.1.0.1.2+

露出アンダー ← █ → 露出オーバー

●露出補正を解除するときは補正量をく0>に合わせます。なお、設定された補正量はモードダイヤルをくOFF>にしても解除されません。

4 撮影する



- モードダイヤルを基本撮影ゾーンにすると露出補正は自動的に解除されます。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値5.6が適正露出のとき、露出レベル目盛で1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを表示パネル上の数値で以下のように変更することと同じです。

	-1段 ← 0 → +1段
シャッター速度なら	250 ← 125 → 60
絞り数値なら	8.0 ← 5.6 → 4.0

自動で露出をずらして撮る／AEB

設定した露出補正量の幅に従ってカメラが自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影することができます。これをAEB (Auto Exposure Bracketing) といいます。標準露出を中心に1/2段ステップで+2段から-2段の範囲でAEB撮影の補正量を設定することができます。撮影モードごとに設定されているフィルム巻き上げモードで、標準露出、露出アンダー、露出オーバーの順で撮影します。微妙な光線状態を表現したり、カラーリバーサルフィルム（スライド用カラーフィルム）を使用した撮影に特に有効です。



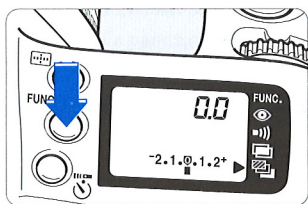
標準露出



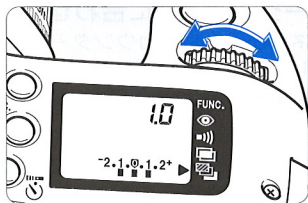
露出アンダー (-1.0)



露出オーバー (+1.0)



1 ファンクションボタンを押して、**<▶>**マークを**<FUNC>**に合わせる



2 露出補正量を選ぶ

- 電子ダイヤルを回して、希望する露出補正量を選びます。例えば「1.0」を設定すると標準露出/露出アンダー (-1.0) /露出オーバー (+1.0) の順で露出をかえます。
- AEBを解除するときは、露出の補正量を「0.0」にします。なお、設定された補正量はモードダイヤルを**<OFF>**にしても解除されません。
- 次のいずれかの操作をすると、設定は終了です。
 - ・シャッターボタン半押し
 - ・モードダイヤル操作
 - ・設定後6秒経過（自動終了）

-2,1,▼,1,2+	：標準露出
-2,1,▼,1,2+	：露出アンダー
-2,1,▼,1,2+	：露出オーバー

3 撮影する

- 表示パネルとファインダーの露出値は、撮影順に補正された値を表示します。
- AEB撮影では、露出表示されている間、表示パネルのAEB撮影表示横のく▶>およびドットが点滅します。



- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは補正量を「0.0」に戻します。
- セルフタイマー／リモコンを使用したときは、自動的に3コマ連続撮影されます。
- モードダイヤルを基本撮影ゾーンにすると、AEBは自動的に解除されます。
- ストロボを使用すると、AEB撮影はできません。

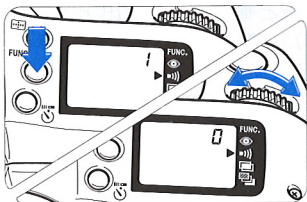


- 連続撮影でシャッターボタンを押し続けると3コマ連続して撮影されますが、露出補正量の表示はされません。
- AEBと露出補正を組み合わせる使用することができます。そのとき、表示の範囲を越える露出補正をする、表示は右図のようになりますが、撮影は設定通りに行われます。

-2,1,▼,1,2+	：±1段のAEBをセットした状態
-2,1,▼,1,2+	：-1段の露出補正をした状態
-2,1,▼,1,2+	：-1.5段の露出補正をした状態
-2,1,▼,1,2+	：-2段の露出補正をした状態

カメラの電子音を消す

すべての撮影モードで電子音を鳴らないようにすることができます。



1 ファンクションボタンを押して、く▶>マークをく▶>に合わせる

- 表示パネルのフィルムカウンターの部分に「1」が表示されます。

2 表示パネルに「0」を表示させる

- く▶>を回して、「0」を表示させます
- 元に戻すときは、「1」を表示します。
- 次のいずれかの操作をすると、設定は終了です。
 - ・シャッターボタン半押し
 - ・モードダイヤル操作
 - ・設定後6秒経過（自動終了）

長時間露光(バルブ)撮影

シャッターボタンを押している間シャッターは開いたままになり、シャッターボタンから指を離すとシャッターは閉じます。これをバルブ撮影といいます。リモートスイッチRS-60E3（別売）やリモートコントローラーRC-1（別売）を併用すればシャッターボタンを押し続ける必要はありません。夜景や花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルをくM>にする

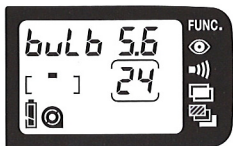
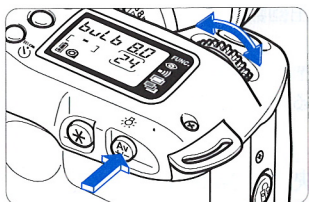
2 シャッター速度を bulb にする

- く $\frac{1}{2}$ >を回して bulb を選びます。
- 30" の次が bulb です。



3 絞り数値を選ぶ

- くAv>ボタンを押しながらく $\frac{1}{2}$ >を回して、希望する絞り数値を選びます。

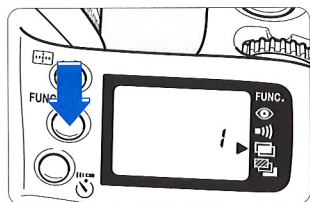


4 構図を決めて撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間シャッターは開いています。
- バルブ撮影中は表示パネルとファインダーに bulb が点滅します。
- 新品の電池を使用した場合、約4.5時間(常温)のバルブ撮影ができます。
- バルブ撮影と多重露出(→62)を併用することができます。

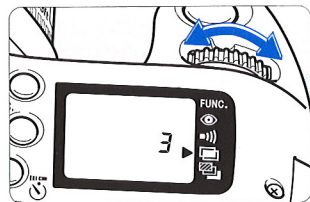
多重露出撮影

1 コマのフィルムで2回以上シャッターを切る多重露出撮影で、特殊な表現の写真を撮ることができます。応用撮影ゾーンで利用できます。



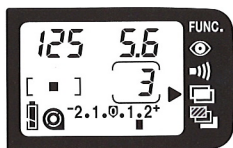
1 ファンクションボタンを押して、 <▶>マークを <■>に合わせる

- 表示パネルのフィルム枚数計の部分に「1」が表示されます。



2 多重露出回数を選ぶ

- <🌀>を回して回数を選びます。
- 多重露出回数は表示パネルに表示されます。
- 設定できる多重露出回数は9回までです。
- 解除するときは回数を「1」にします。



3 構図を決めて撮影する

- 1回目の撮影をした後は、シャッターボタンを半押しすると表示パネルの<■>横の<▶>マークが点滅します。
- 設定した多重露出回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に1コマ巻き上げられ多重露出撮影は解除されます。
- 撮影の途中で多重露出撮影を解除するときは1, 2の手順で多重露出回数の表示を空白にします。
- 次のいずれかの操作をすると、設定は終了です。
 - ・ シャッターボタン半押し
 - ・ モードダイヤル操作
 - ・ 設定後6秒経過（自動終了）



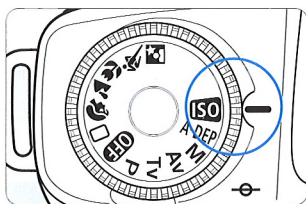
1コマのフィルムに何回も露出を与える多重露出撮影では、露出値を最初に補正しておく必要があります。「露出を補正して撮る」(→58)もお読みください。補正量の目安を次に示します。

多重露出の回数	2回	3回	4回
補正量の目安〔段〕	-1.0	-1.5	-2.0

- この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わりますので、あらかじめテスト撮影を行って撮影データを求めておいてください。
- モードダイヤルを基本撮影ゾーンにすると、多重露出は自動的に解除されます。

ISOフィルム感度を変更する

DXマークのないフィルムを使用するときや、任意のフィルム感度設定するとき、次の手順で行います。設定できるフィルム感度の範囲はISO 6～6400です。



1 モードダイヤルをくISO>にする

- 表示パネルにく**ISO**>とフィルム感度を示す数字が表示されます。



2 フィルム感度を選ぶ

- 表示パネルを見ながらく $\left[\text{wheel icon} \right]$ >を回して、希望するフィルムの感度を選びます。

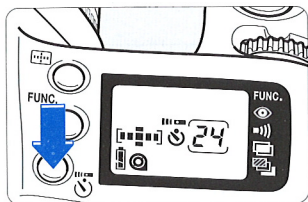
3 モードダイヤルを戻す



フィルム感度を手動で設定してもDXコードがついているフィルムに入れ換えると手動で設定した数値は解除されます。

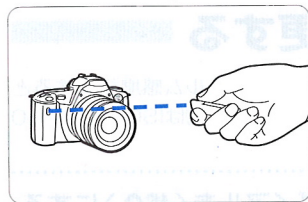
ワイヤレスリモコン(別売)を使って撮る

すべての撮影モードでワイヤレスリモコン撮影ができます。



1 <⓪>ボタンを押す

- 表示パネルに<⓪><■●●>が表示されます。
- もう一度<⓪>ボタンを押すかモードダイヤルを<OFF>にすると解除されます。



2 リモコンで撮影する

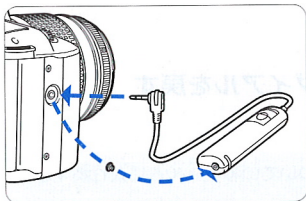
- リモコンの送信部をカメラのワイヤレスリモコン受信部に向けて送信ボタンを押します。
- 作動距離は約5m以内です。
- 作動表示はセルフタイマー(→37)の最後の2秒と同じです。



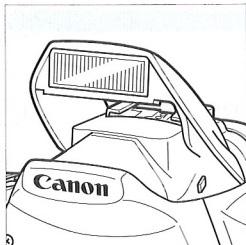
蛍光灯が近くにあるとき、蛍光灯の種類によっては、カメラが誤作動する恐れがあります。できるだけカメラを蛍光灯からはなしてください。

リモートスイッチ(別売)を使って撮る

すべての撮影モードでリモートスイッチによる撮影ができます。



リモートスイッチRS-60E3のプラグをリモコンジャックに差し込み、リリースボタンを押して撮影します。



- 基本撮影ゾーン（、）を除く）では、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に上がって発光します。
- 応用撮影ゾーンでは、明るさに関係なく、必要なときにボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけで、いつでもストロボ撮影ができます。

また、通常の撮影と同じ感覚で、絞り数値やシャッター速度（1/90秒以下）の設定を行うことができます。ストロボ光の露出は、常にその時の絞り数値を基準にして自動制御されます。

内蔵ストロボを使った撮影

別売のEOS専用外付けストロボについて

EOS専用EXシリーズスピードライトを装着すると、内蔵ストロボと同じ感覚の簡単な操作で、AFフレームに連動した、E-TTL自動調光撮影ができます。大光量が必要な集合写真や、光を演出したポートレート撮影におすすめします。また、全てのシャッター速度に同調発光するハイスピードシンクロ（FP発光）やFEロック（ストロボ光のAEロック）撮影を行うこともできます。

なお、EXシリーズストロボの機能は、装着するEOSカメラのタイプ（本機はAタイプカメラです）により異なります。詳細はストロボ使用説明書の「Aタイプカメラとの組み合わせ」を参照してください。

内蔵ストロボ撮影

基本撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

基本撮影ゾーン(〈〉、〈〉を除く)では、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に上がって発光します。

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

応用撮影ゾーンでは、〈〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げて撮影します。

- P** : カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。
シャッター速度と絞り数値は〈〉(全自動)と同様、自動的に決まります。
- Tv** : 1/90秒以下の任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。
設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動セットされます。
- Av** : 任意の絞り数値を設定したいときに選択します。
夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長時間露光で適正露出になります。
●自動スローシンクロ撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、必ず三脚を使用してください。
- M** : シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。
主被写体は、ストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。
- A-DEP** : 〈**P**〉と同じストロボ撮影結果となります。

内蔵ストロボの届く距離 (EF28-90mm F4-5.6 USMを使用した場合)

ISO	28mm		90mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1~4.2m	1~3m	1~3m	1~2.1m
400	1~8.4m	1.2~6m	1~6m	1~4.3m

ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

撮影モード	同調シャッター速度	絞り数値
P	1/90秒にシャッター速度が自動設定されます。	TTLプログラムによる調光絞り数値が自動設定されます。
Tv	1/90秒以下の任意のシャッター速度を手動で設定します (*).	セットしたシャッター速度に対し、明るさに応じた絞り数値が自動設定されます。
Av	設定した絞り数値に対し、明るさに応じたシャッター速度 (30"~1/90秒の間) が自動設定されます。	任意の絞り数値を手動で設定します。
M	1/90秒以下の任意のシャッター速度を手動で設定します (*).	

(*) 1/90秒以上に設定した場合は、自動的に1/90秒に設定されます。



- < **Tv** > < **M** > で1/90秒より速いシャッター速度をセットしても、自動的に1/90秒に再設定されます。
- 内蔵ストロボとEOS専用外付けストロボを一緒に使用することはできません。
- EOS専用外付けストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。



- 1m以内で内蔵ストロボ撮影すると画面の一部が欠け（ケラれ）て暗い写真になります。ストロボ撮影は被写体から1m以上離れてください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは必ずレンズからフードを外してください。
- 次のレンズを使用すると内蔵ストロボの光がケラれることがあります。これらのレンズでストロボを使用するときはEOS専用外付けストロボをおすすめします。
EF17-35mm F2.8L USM, EF28-70mm F2.8L USM などの大口径レンズ
EF300mm F2.8L USM, EF600mm F4L USM などの超望遠レンズ
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は焦点距離28mmまでです。28mm未満の広角レンズを使用すると、できあがった写真の周辺部が暗くなります。

写真の基本用語解説

露出

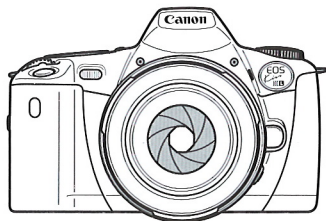
写真を撮るためにフィルムに光を当てることを露出（または露光）といいます。また、フィルム感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。適正露出は、「シャッター」と「絞り」の組み合わせで調整します。

シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示されるシャッター速度は、2000（1/2000秒）～ 30"（30秒）、buLb（バルブ）となっています。

絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字（焦点距離÷開口径）を絞り数値といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、1.0 ～ 9.1 となっています。



フィルム感度 (ISO値)

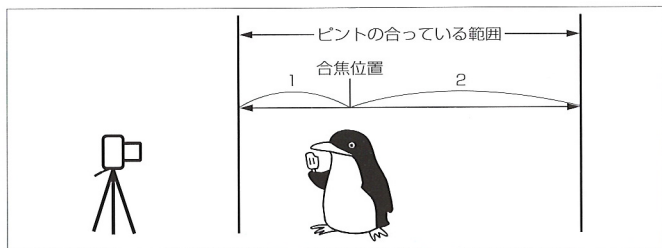
フィルム感度は、フィルムがどのくらいの光にまで感応するかを示すものです。感度はISO（国際標準化機構）で定めた数値で表示されています。数値が大きくなるほど、光に対する感度が高くなり、ISO400以上の高感度フィルムでは比較的暗いところでも写真が写るようになります。このカメラの表示パネルに表示されるフィルム感度は、6 ～ 6400 となっています。

被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広がります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントの合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

- (1) 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
- (2) 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
…望遠レンズより広角レンズの方が被写界深度は深くなる。
- (3) 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
- (4) 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は一般的に手前1に対して奥側が2になる(下図参照)。



絞り数値F2



絞り数値F22

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定 ○：選択可能

モード ダイヤル のマーク	AF		AFフレーム選択		フィルム巻き上げ		測光方式			内蔵ストロボ	
	ワン ショット	AI フォーカス	自動	手動	一枚 撮り	連続 撮影	評価 測光	中央部重点 平均測光	部分 測光	自動	手動
		●	●		●		●			●	
	●		●			●	●			●	
	●		●		●		●				
	●		●		●		●			●	
		●	●			●	●				
	●		●		●		●			●	
P		●	○	○		●	●		●*		●
Tv		●	○	○		●	●		●*		●
Av		●	○	○		●	●		●*		●
M		●	○	○		●		●	●*		●
A-DEP	●		●		●		●		●*		●

*部分測光ボタンが押されているときのみ部分測光になります。

〈M〉モードを選択すると、中央部重点平均測光になります。

AIは、Artificial Intelligence／人工知能の略です。

ワンショットAF：被写体にピントが合うと同時に露出が決まります。ピントが合うまでシャッターは切れません。

AIフォーカスAF：シャッターボタンを押したときの被写体の動きによってAFの方式を自動的に切り換えます。

被写体が動いていない場合は、合焦と同時にピントを固定します（ワンショットAF）。また、動いている場合は、シャッターが切れるときのピント位置を予測しながら連続してピントを合わせつづけます（AIサーボAF）。

AFモードとフィルム巻き上げの関係

フィルム巻き上げ	ワンショットAF	AI サーボAF
一枚撮り	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光で露出を固定します（撮影前に露出の値を記憶）。	被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。露出はシャッターを切る瞬間に決定されます。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となります（1秒間に最高約1.5コマ）。	上と同じ条件で連続撮影となります。ピント合わせは連続撮影中も作動します（1秒間に最高約1.3コマ）。

露出警告表示一覧表

撮影モード	表示警告例 (点滅)	意 味	備 考
P		被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
		被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv		露出アンダーになります。	＜＞を回してシャッター速度を遅くしてください。
		露出オーバーになります。	＜＞を回してシャッター速度を速くしてください。
Av		露出アンダーになります。	＜＞を回して絞り数値を小さくしてください。
		露出オーバーになります。	＜＞を回して絞り数値を大きくしてください。
A-DEP		希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) スームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
		被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。撮影結果は＜P＞によるストロボ撮影と同じになります。
		被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。



警告表示例は、使用するレンズの最小絞り数値がF4.0、最大絞り数値がF22のときの表示例です。使用するレンズによって、最小絞り数値、最大絞り数値が異なります。

「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表を参考にしてカメラをチェックしてください。

症 状	原 因	解決方法	参照頁
1. 表示パネルに 表示がでない	電池が消耗していませんか？	電池を新しいものと交換してください。	20
	電池が逆向きに入っていないませんか？	電池を正しい向きに入れなおしてください。	20
2. シャッターが 切れない	フィルムは正しくセットされていますか？ (表示パネルにフィルム枚数が表示されていますか？)	フィルムを正しく入れなおしてください。	24
	巻き戻されたフィルムがカメラに入っていないませんか？ (表示パネルのフィルムカウンターが空白になっていませんか？)	フィルムを新しいフィルムと交換してください。	24
	ピントは合っていますか？ (ファインダー内の合焦ランプが点滅していませんか？)	もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときはレンズのフォーカスモードスイッチを MF (または M) にセットし、レンズの手動フォーカスリングを回して、ピントを合わせます。	23 46
3. 写真がボケて 写っている	レンズのフォーカスモードスイッチが MF (または M) になっていませんか？	レンズのフォーカスモードスイッチを AFI にしてください。	22
	シャッターボタンを押すときに手ぶれを起こしていませんか？	手ぶれを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。	23
4. 表示パネルに ⬮のみが点滅 している	電池の容量が極端に少なくなっています。	電池を新しいものと交換して、⬮が点灯すれば正常に撮影できます。	21
	なんらかの理由でカメラが誤動作していると考えられます。	シャッターボタンを半押しして、カメラが撮影準備状態に戻れば正常に撮影できます。 * ⬮の表示がそのままの場合はカメラの故障です。カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。	21 別紙

主なアクセサリー（別売）



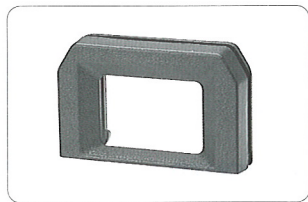
バッテリーパック BP-200

カメラにセットしてあるリチウム電池CR2の代わりに、世界のどこでも入手が容易な「単3形乾電池」を使用する縦位置シャッターボタン付き、外部電源パックです。



アイピースエクステンダー EP-EX15

接眼部に取り付けるとEOSのファインダーを15mm延長します。そのときのファインダーの倍率は約0.5倍になります。



視度補正レンズ E

カメラ本体の視度はマイナス1ジオプターですが、視度補正レンズEを取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。交換用視度補正レンズとして10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてファインダーをのぞいて確かめてから選んでください。

- 視度補正レンズに表示されている数値はカメラに装着したときの合成視度を表しています。視度補正レンズ単体の視度数値ではありません。



リモートスイッチ RS-60E3

マクロ撮影や長時間露光（バルブ撮影）のときに三脚と併用してカメラぶれを防ぐリモートスイッチです。カメラのリモコンジャックに接続して使います。

リモートコントローラー RC-1

カメラから約5m離れて撮影することができます。
即撮影と2秒後撮影が選択できます。



EXシリーズスピードライト

アクセサリシューに取り付けて使用する、E-TTL自動調光対応のEOS専用ストロボです。



カメラケース EH13-L

カメラにレンズを付けたまま収納できる、専用ケースです。



グリップ GR-100TP

カメラのグリップを大型化してホールド性を高めます。また簡易三脚を内蔵しているのでセルフタイマー撮影やローアングル撮影のときに利用することができます。



このカメラにはキャノンのEOS専用ストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持つ）、高圧タイプのストロボおよびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

主な仕様

■形式

型式	ワインダー・ストロボ・オートデード内蔵 フォーカルプレーンシャッター 式35mm一眼レフレックスAF・AEカメラ
撮影画面サイズ	24×36mm、パノラマ撮影時13.3×36mm
使用レンズ	キャノンEFレンズ群
レンズマウント	キャノンEFマウント(完全電子制御方式)

■ファインダー

型式	ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率	上下左右とも90%
倍率	0.7倍(50mmレンズ・無限遠)
標準視度	-1ジオプター(アイポイント18.5mm)
フォーカシングスクリーン	固定式、全面ニューレーザーマットスクリーン
ファインダー情報	① 視野内 AFフレーム ② 視野外下部 シャッター速度、絞り数値、露出レベル、AE/FEロック、ストロボ充電完了、ハイスピードシンクロ(FP発光)、赤目緩和表示、AFフレームマーク、AF合焦・MF合焦表示
ミラー	クイックリターン式全面ハーフミラー(ミラー切れ：EF600mm F4L USM装着時までなし)
深度確認	被写界深度確認ボタン操作で確認

■露出制御

測光方式	35分割SPC使用・TTL開放測光 ① 評価測光(7つの測距点に対応) ② 部分測光(AEロック時自動設定、測光範囲：ファインダー画面中央の約9.5%) ③ 中央部重点平均測光(マニュアル露出時自動設定)
撮影モード	① プログラムAE(プログラムシフト可能) ② シャッター優先AE ③ 絞り優先AE ④ オートDEP ⑤ 全自動モード ⑥ イメージセレクトプログラムAE (5種：ポートレート・風景・クローズアップ・スポーツ・夜景) ⑦ ストロボAE：EXシリーズストロボ使用・E-TTLプログラムストロボAE 内蔵ストロボ使用・TTLプログラムストロボAE EZシリーズストロボ使用・A-TTLプログラムストロボAE ⑧ マニュアル
手振れ警告	基本撮影ゾーンにおいて、自動セットされたシャッター速度が、「1/使用レンズの焦点距離」以下となった場合、シャッター速度点滅(2Hz)警告
測光範囲	EV2～20(常温常湿、50mm F1.4・ISO100)
使用フィルム感度	ISO6～6400(DXコード自動対応：ISO25～5000・1/3段ステップ)
露出補正	① AEB：1/2段ステップ±2段、標準・アンダー・オーバーの順で撮影 ② マニュアル補正：1/2段ステップ±2段

AEロック	① オートAEロック ONE SHOT AF・評価測光時：合焦と同時にAEロック ② AEロックボタン押し、中央部部分測光・AEロック
多重露出	最大予約回数9回

■オートフォーカス

AF制御方式	CMOSセンサーによるTTL-SIR方式
測距点	7点(11511)
測距輝度範囲	EV1~18(ISO100)
AFフレーム選択	① カメラによる自動選択 ② 任意の1点を手動選択
フォーカスモード	① ワンショットAF：測距完了にて停止、測距完了後にリリース可能 ② AIフォーカスAF：ワンショットAFで捕らえた被写体が、前後に移動を始めるとその移動量を検知し、AIサーボAFに自動切り換え ③ マニュアルフォーカス：フォーカスモードスイッチがMF時、手動フォーカスリング操作により可能
AF補助光	ストロボ間欠発光方式、必要に応じ自動投光

■シャッター

型式	縦走りフォーカルプレーン式全速電子制御シャッター
シャッター速度	1/2000秒~30秒(1/2段ステップ)、バルブ、X=1/90秒
リリース方式	ソフトタッチ電磁リリース
セルフタイマー	電子制御式、時限10秒

■フィルム給送関係

フィルム装填	自動、プリwind方式
巻き上げ	自動：①一枚撮り ②連続撮影(秒間最高約1.5コマ)
巻き戻し	① 自動巻き戻し：フィルム終了と同時に巻き戻し開始 ② 途中巻き戻し：途中巻き戻しボタン押しにより開始
巻き戻し音	約60dB

■内蔵ストロボ

型式	リトラクタブル式TTL自動調光ストロボ(直列制御)
	① ガイドナンバー：12(ISO100・m)
	② 充電時間：約2秒
	③ 照射角：焦点距離28mm画角に対応
	④ 調光方式：TTL自動調光(測距点連動3分割調光)

■本体関係

フラッシュ接点	アクセサリシュー部：X・直結接点
外部ストロボシステム対応	E-TTL/A-TTL/TTL自動調光対応
赤目緩和機能	内蔵ランプ照射方式、全撮影モードでON/OFF可能
リモートコントロール	① RS-60E3対応リモコンジャック標準装備 ② RC-1対応ワイヤレスリモコン受信機能内蔵
電源	リチウム電池 CR2、2本
撮影本数	24枚撮りフィルム・ストロボ50%使用・表示パネル照明なし 常温(20℃)：約24本、低温(-10℃)：約16本
電池チェック	モードダイヤルL位置解除、表示パネルに4段階常時表示
大きさ	140(W)×90(H)×58.5(D)mm
質量	355g (ボディのみ)

レンズ		EF28 - 90mm F4 - 5.6 USM	EF80 - 200mm F4.5 - 5.6 USM	EF75 - 300mm F4 - 5.6III USM
画角	対角線	75°~27°	30°~12°	32°11'~8°15'
	垂直	46°~15°10'	17°~7°	18°11'~4°35'
	水平	65°~22°40'	25°~10°	27°~6°50'
レンズ構成枚数		8群10枚	7群10枚	9群13枚
最小絞り		F22~F32	F22~F27	F32~F45
撮影距離範囲		0.38m ~ ∞	1.5m ~ ∞	1.5m ~ ∞
最大撮影倍率 (W/T)		0.10/0.30	0.065/0.16	0.07/0.25
フィルター径と使用可能枚数		58mm 1枚	52mm 1枚	58mm 1枚
最大径 × 長さ		67 x 71mm	69 x 78.5mm	71 x 122.1mm
質量		190g	260g	480g

*データはすべて当社試験条件によります。

*製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索引

英数字

AEB撮影.....	59
AFの苦手な被写体 (手動ピント合わせ)	46
AFフレーム ～から外れた被写体にピントを 合わせる	45
～の選択	44
AFモードとフィルム 巻き上げの関係	70
AIサーボAF	70
AIフォーカスAF	70
AF補助光	30
EOS専用外付けストロボ	65

あ

アイピースカバーを使う	38
👁️ 赤目緩和機能を使う	31
アクセサリ	73
一枚撮影と連続撮影	30
イメージゾーン	18
応用撮影ゾーン	18

か

各部の名称	14
カメラの構え方	26
🔊 カメラの電子音を消す	60
基本撮影ゾーン	18
📷 クローズアップで撮る	34
「故障かな？」と お考えになる前に	72

さ

撮影可能フィルム本数	21
撮影機能の組み合わせ一覧	70
📷 自動で露出をずらして撮る ／AEB	59
絞り数値	68

Av 絞りを決めて撮る	52
シャッター速度	68
シャッターボタン	23
～半押し	23
～全押し	23
Tv シャッター速度を決めて撮る ..	50
M 自由に露出を決めて撮る	54
手動でピントを合わせる	46
仕様	75
すぐ撮影したい方のために	13
ストラップ(吊りひも)の 取り付け方	19
ストロボ同調シャッター速度と 絞り数値	67
ストロボの自動発光について	30
🏃 スポーツで撮る	35
🕒 セルフタイマーを 利用して撮る	37
📷 全自動で撮る	28
測光方式について	47

た

📷 多重露出撮影	62
A-DEP 近くから遠くまでピントが 合った写真を撮る	56
中央部重点平均測光	47
長時間露光(バルブ)撮影	61
電子音を消す	60
電池 ～をセットする	20
～容量を確認する	21
クオートデート用～の交換	40

な

内蔵ストロボの届く距離	66
内蔵ストロボ撮影	66

は

パノラマ	
～写真を撮る.....	41
～撮影したフィルムとプリント	
について.....	42
被写界深度.....	69
被写界深度を確認する.....	53
日付／時刻	
～を入れて撮る.....	39
～を変更する.....	40
評価測光.....	47
表示パネル.....	16
☀ 表示パネル照明.....	55
🌄 風景で撮る.....	33
ファインダー内表示.....	17
フィルム	
～を入れる.....	24
～を取り出す.....	25
～途中巻き戻し.....	25
～感度を変更する.....	63
～感度 (ISO値).....	68
部分測光.....	47
★ 部分測光・AEロックで撮る.....	57
P プログラムAEで撮る.....	48
プログラムシフトについて.....	49
P と □ (全自動) の違い.....	49
📷 ポートレートで撮る.....	32

ま

モードダイヤルについて.....	18
------------------	----

や

🌃 夜景で撮る.....	36
--------------	----

ら

リモートスイッチ (別売) を	
使って撮る.....	64
レンズ	
～の仕様.....	77
～の取り付け方.....	22
～の取り外し方.....	22
連続撮影.....	70
露出.....	68
露出警告表示一覧表.....	71
露出を補正して撮る.....	58

わ

📶 ワイヤレスリモコン (別売) を	
使って撮る.....	64
ワンショットAF.....	70